

展規則大綱 の実施により、子どもの健全な発達の重要性が認識され、大きな改善を見た。中国 5 歳以下の子どもにおける中程度の低体重は、1991 年の 21% から 1997 年の 16% まで下降したという。他面、子どもの栄養不良は 西市によくある病気である。90 年代雲南省児童発展規則大綱 で謳われている“2000 年までに、5 歳以下乳幼児の中程度の栄養不良を、1990 年の半分にする”という目標はまだ達成されていない。各民族において妊産婦の食生活や乳幼児の栄養方法が違うことから、子どもの栄養状態は各民族によって異なり、また栄養問題もそれぞれに異なる重さを持っている。雲南省衛生庁が 1998 年に行った“雲南省 10 地区の 6 民族における 0 ~ 7 歳の身体発育調査研究”の結果によると、幾怛の子どもは、省内に居住する他の主な民族である漢族、白族、厖(い)怛、込釣(はに)怛、追廉(なし)怛と比べて体重が最も軽い。また、1998 年の統計では、尊廉偏における乳児総死亡率の 11.68% が栄養不良によるものだという。

以上のことから、予防教育を通して住民の良くない生活習慣や行動を改める、健康を促進する行為を身につける、病気を予防し、健康水準を高める、の 3 点を目標とし、当プロジェクトが始められた。

・プロジェクト概要

基礎調査の結果をもとに、プロジェクトは現在、介入段階にある。2 歳以

下の乳幼児と母親及び子どもの面倒を主にみる人々を対象とし、市内の 5 つの介入地区において、乳幼児に身体計測と記録カードを作成し、また、集中式宣伝教育としてビデオ CD (VCD) 放映、マンツーマンによるパンフレット「赤ちゃんの栄養」の解説、配布を行っている。

プロジェクト業務遂行にあたり、市の人民政府の決定を経て、西市副市長を組長とするピラミッド型の組織が作られ、責任が分担された(図参照)。また、5 つの介入地区の政府により、リーダー小グループ及び技術指導の小グループが組織された。指導グループのメンバーは、各種データと状況をまとめ、また、各介入地区に生じる問題に対処する役割を持つ。介入は 2003 年まで続き、その後には評価のための調査を予定している。

・西市の現状

基礎調査により、西市の乳幼児は平均体重において中国全土より低く、発育阻害や消耗症発症率が近隣諸国より高い、母乳哺育期から離乳期における栄養摂取の実態把握の必要性、栄養不良とその予防に対する、母親への知識普及の必要性、が明らかになった¹⁾。結果、母乳哺育期から離乳期にかけて適切な栄養摂取の重要性が再確認され、研究対象を 2 歳以下の乳幼児(基礎調査は 5 歳以下)に絞り込むことになった。

中国においては Baby Friendly Hospital Initiative の普及が盛んであ

り、また調査地における平均母乳哺育期間は 12.79 ± 3.10 ヶ月¹⁾と比較的長期であることから、まず適切な母乳哺育を行い、次に適切な時期に安全な離乳食摂取をすすめる事が、乳幼児の健全な発育に有効かつ重要と考えられる。ある程度大きくなった乳幼児のすべての栄養必要量を母乳や人工乳だけで満たすことはできず、適切な離乳は乳幼児の健全な発育のために極めて重要である。また、特に開発途上国において乳児の消化不良は、母乳から離乳食に移り変わる1歳前後に起こりやすく、その一因として離乳食への切り替えの失敗、衛生状態の問題などが挙げられる。

加えて調査地に特異的な問題としては、お粥やよく煮込んだ麺が現地の離乳食の主流であるが、それらに肉や野菜等を混ぜるという習慣がなく、それが栄養不良の一因と考えられることである。乳幼児栄養不良改善には各種指導による養育者の行動変容 お粥や麺に肉や野菜を混ぜて児に与えることが重要であるとし、それを介入目標の一つとしている。

・メディアの活用

当プロジェクトでは、教育項目の広報能力を高めるために以下のような工夫がなされている。

地域の現状に合わせて、民族の言語を使用する。

通俗的でわかりやすい表現にする。

方法は多様であるべきで、パン

フレット、VCD、黑板新聞（公共施設などの壁にある黑板で、各種情報の提供手段として使用されている。写真参照）などに活用していく。

調査地住民の中国語識字率は約20%と言われており、他の多くの人々は幾語を使用している。そこで、幾語と中国語の栄養指導 VCD が現地スタッフにより作成された。その内容は「子どもの栄養不良とは」「母乳栄養についての知識」「離乳食についての知識」から成り、時間は約20分である。

VCD は中国だけにとどまらず東南アジアにおいて広く普及しているメディアである。1999年の統計によると、雲南省都市部においては100%の家庭にテレビが、40%の家庭に VCD プレーヤーがある²⁾。また、健康教育へのメディア使用の効果については、すでに幾つかの報告がなされている。1981~1991年にエジプトで行われた“the National Control of Diarrheal Diseases Project(NCDDP)”において、人々、特に母親への指導方法としてマスメディアが利用された。「下痢から起こる危険は脱水であり、補水が適切な処置である」という考え方の普及、及びトレーニングを含めた NCDDP と政府政策との結果、経口補水液の迅速な利用により、発病時の水分補給を以前より容易にした³⁾。また、アメリカ合衆国ヴァージニア州では、住民の飽和脂肪酸摂取減少

に焦点を当て、一般の牛乳摂取から低脂肪または無脂肪牛乳摂取への行動変容を促すキャンペーンを行ったが、そこでもテレビ等で行った宣伝が効果的であったことを示している⁴⁾⁵⁾。

ビデオによる健康教育が人々の行動を形成するのに役立つというエビデンスはすでに報告されている⁶⁾。また、アメリカ合衆国で行われた、ラテン系の低学歴女性への乳癌に関する健康教育に、スペイン語によるマルチメディアの使用が効果的であったことを報告している⁷⁾。健康情報についてのパンフレットを理解するためには、ある程度の読解力を有する。アメリカ合衆国においても、乳癌に関するパンフレットを理解するためには、高校レベルのリーディングスキルを要するとされており、知識やその地域での公用語能力が低い人々に対する母語での情報提供の開発の必要性が強調されている⁶⁾。幾語で作成された栄養指導 VCD は、そのニーズを満たす可能性がある点で期待できる。

VCD には、他にも幾つかの利点がある。パンフレットや黒板新聞は一部の人々には有効であるかもしれないが、文盲の人々には役立たない。一方、VCD は視覚や聴覚にも訴えるため、文字が読めない人々にも情報を提供できる。また、健康情報提供には、対象の能力にあった資料内容の確保も必要である。VCD では現地の食材を使用し、家庭の台

所で離乳食を作る設定で説明がすすめられる等の工夫がなされている。

エジプトの NCDDP やアメリカ合衆国の2つのプロジェクトは、健康教育活動において複数のメディアを利用し、また地域活動や政策と連携することの有効性についても報告している。今後、当プロジェクトの成功には、組織や情報提供のための各媒体をより有効に活用できるプロジェクトデザインが重要であると考えられる。

文献

- 1) 堀田正央, 中国雲南省少数民族地域における発育支援. 東京大学大学院医学系研究科修士論文, 2001
- 2) 雲南年鑑雑誌社, 雲南年鑑 2000
- 3) Peter Miller et al., The Effect of a National Control of Diarrheal Diseases Program on Mortality: The Case of Egypt. Soc. Sci. Med. 40, No. 10, S1-30, 1995
- 4) Bill Reger et al., Using Mass Media to Promote Healthy Eating: A Community-based Demonstration project. Prev Med, 29, 414-21, 1999
- 5) Bill Reger et al., A Comparison of Different Approaches to Promote Community-Wide Dietary Change. Am J Prev Med, 18(4), 271-75, 2000
- 6) Soloman MZ et al., The impact of a clinic-based educational videotape on knowledge and treatment behavior of men with gonorrhoea. Sex Transm Dis, July-September, 127-132, 1988
- 7) Armando Valdez et al., A Multimedia Breast Cancer Education Intervention for Low-Income Latinas. Journal of Community Health, Vol 27, No. 1, February, 2002